【巻頭言】

神戸大学マルチメディアネットワークセンター構想

総合情報処理センター長　高森 年

知のキャンパス

人類がメディアとともに知的発展を遂げてきた歴史的事実があるように、これからはネットワークメディアを活用し、リアルタイムの情報収集、情報の視覚化、遠隔地間グループ研究などを実現しうる、いわゆるネットワークコンピューティングによる革新的かつ意欲的な高度専門教育・研究が大学において展開するであろう。

すなわち、キャンパス内において、高速かつ多機能なコンピュータ群とコミュニケーションネットワーク群とをリアルタイムで、**「何時でも・誰でも・何処からでも」**、教育・研究のために自由に利用・活用できる環境（＝ネットワークコンピューティング環境）を大学の基盤として確立し、これに基づいて大学院高度専門教育・研究が実施される。

知のキャンパスとは、キャンパス自体が自律的に知的レベルを向上し、ますますインテリジェント化しうる能力を持つキャンパスを意味する。このようなキャンパスを実現するためには、ネットワークコンピューティング環境を基盤にして、大学内の教官・職員が、日々の教育・研究活動を継続するなかで、自然のうちにキャンパス自身がインテリジェント化を深めて行くようなしくみ（＝インテリジェントネットワークコンピューティングシステム）を構築する必要がある。

神戸大学マルチメディアネットワークセンターは、このような知のキャンパスを神戸大学において実現する。

大学における教育・研究情報は、各学部・研究科などの教育・研究担当部局の研究室、図書館、および事務局において創生・処理・蓄積・流通がなされている。大学の効率よい運用形態として、情報の創生・処理・蓄積は、（大容量情報の処理・蓄積などの）特殊な場合をのぞけば**情報の創生者の場所において分散的に行うことが望ましい。**しかし、**情報の流通については、そのセキュリティ補償の問題から学内外に対して統一的制御が必要である。**

一方、価値ある情報流通を実行するためには、蓄積される情報の望ましい形態（専門家だけではなく、誰でもが知識として利用できる情報形態）とそのための処理が重要である。現在、情報のマルチメディア化の方法が、この形態として最も有効であると認識されている。このため、**情報のマルチメディア化をサポートする機能**が大学の教育・研究を充実させるために不可欠な状況となってきた。

他方、大学において創生される情報の公開が社会的要請となりつつある。大学がこの要請に応えるためには、高速ネットワークによって分散結合された情報が、大学内の教官・職員が日々

の教育・研究活動を継続するなかで、自律的に自然のうちにキャンパス自身がインテリジェント化を深めて行くような基盤"知のキャンパス"を構築し、これを通じて学内外に情報の公開を実現する必要性に迫られてきた。

以上の様な状況を認識し、神戸大学総合情報処理センターは、新たに「神戸大学マルチメディアネットワークセンター（KMNC：Kobe University Multi-Media Network Center）」と改名・改組する。新体制によって、"知のキャンパス"実現のためのネットワークコンピューティングシステムの開発とその管理サービス機能を中心に据えたセンターとし、これにより、神戸大学の高度専門教育と先端的研究の発展に寄与する。

最後に、新センター設立に関し学内関係者の強いご支持とご支援を切に期待いたします。